

第12回 3D教育研究会 開催レポート

ダイジェスト



2011年2月19日（土）、東京都文京区湯島にある東京ガーデンパレスの一室にて、第12回3D教育研究会が開催された。13校の学校および学校関係者が多数参加。

第1部は前三輪田学園校長の西惇先生をお招きし「私の私学教育論～校長職16年の反省から～」と題した講演が行われました。

また、アンケート集計報告（東京学園高・高野淳一先生）と各学校の3D教育プログラムの活用状況を発表され、充実した時間となりました。

第2部では、会場を移して懇親会が行なわれ、参加者同士の交流を深めると共に、リラックスした雰囲気の中、自己紹介などが行なわれました。



第1部「講演会」

“私の私学教育論～校長職16年の反省から～”

●順天中学校高等学校の片倉先生より挨拶

皆様こんにちは。この3D教育研究会も回を重ねること12年経ちまして非常に広がりが出てきて、色々な先生方が参加してくれるようになりました。今日は三輪田学園の前校長西先生にお越し頂き、ご講演して頂けるということで、非常に楽しみにしております。実はこの3D教育研究会では色々な研修会を行っておりますが、エゴグラムそしてグループコミュニケーションというものを広めていきたいという気持ちがありまして、その為の研修会でもございます。そういう意味でも今日のご講演を聞いて頂いてそれを活かせるのであれば良いなと思っております。

私の学校でもグループコミュニケーション、エゴグラムというものを大事にしております、学校の中でも一つの柱となっています。どういったところが柱なのかと申しますと、やはりこれから求められる人材というのはコミュニケーション力やグループ学習、自分で探求するような学習などが求められる時代になっています。その為にこういった会などを利用して頂いて、また本日の講演を聞きながらそれをどのように利用していくのか、どういったところにヒントがあるのかということを楽しみにしております。今日は宜しくお祈りします。

片倉 敦先生(順天中学校・高等学校 副校長)

前三輪田学園校長の西惇先生による講演

ご自身で作成されたレジュメ『私の私学中等教育論』や三輪田学園の『学校説明会資料集』を参照のもと、約90分間行なわれました。(以下内容)



◎私学教員というもの

(1) 三輪田学園社会科教員に採用されて(1973年～1993年)

a. 学校と教員(対生徒)への2つの想い

「たまたま採用された学校が三輪田学園だった。それなら日本の教育を三輪田学園で担おう」

「よく(教材)研究した、よい授業をしたい。授業がよければ生徒はついてくる筈」

※私の“よい授業”とは、学問的に深い授業、授業方法は二義的

b. その頃(教員時代)の勉強

倫理・社会・政治・経済・中学公民等の教材研究、教材に見合った授業法(グループ発表等)

担任として、青年心理学、若者論少々

学習指導要領とその解説及び批判論文、それをとおして教育行政の動き、そして・・・断想的に

「受験補習を強化すべきか?」「習熟度別授業の是非?」「教育の在るべき姿は?」



(2) 校長になって (1993年～2009年)

a. 特に21世紀に入って気が付いたこと

若い先生たち…生徒との関わり方、指導法に悩む

校内研修会のテーマの希望…コーチングの実践、話し方の勉強 (NHK アナによる話し方の指導)

→ (背景) 生徒指導が難しくなっている

大学教職課程の改定 (1998年) ; 教育哲学・教育史は選択科目に、

生徒指導法・カウンセリング講座が前面に

→教育論・○○学園論が必要なわけではないか

b. 元気な私学教員とは～三位一体の構造

専門性 (教科指導力・生徒指導力・全教職員との協働性) →専門性・労働者性は生きざま

労働者性 (教員 = 被雇用者として経済条件・労働条件の充実を求め→教育環境の充実に繋がる)

私学性 (教育とは? の一般論を踏まえて、在籍する私学の教育理念を血肉化し、その私学独自の

教科指導法・授業法・生徒指導法を身に付ける)

= 在籍する私学の教育を語れる教員

◎私学中等教育論

(1) 中等教育論

a. 近現代の学校教育 (小～高) とは～堀尾輝久教育学を参考に～

①古典近代の教育の原則 (ロック・ルソーからコンドルセへ)

市民社会の中で生きる人間を育てる。その担い手は家庭教師 (= 私事)、教育権は親

その後、市民全体が子どもに教育を受けさせたい要求から公 (学校) 教育制度が確立してくるが、

人間 (内面) 形成 = 価値観に係わる教育は家庭で

知識・技能の形成に係わる教授は学校で →国家は市民の内面形成に干渉してはならない

②そして国民教育 (国民すべての義務教育) の確立

その後、支配層の大衆教育 (教化) の必要が意識される

// 労働者階級の自覚から、自己教育の要求も出てくる



国民教育の三重構造

市民の自己教育要求

支配層の大衆教化要求

労働者階級の自己教育要求

③近現代の学校教育とは私事の組織化 (学校を中心に保護者・地域教育委員会の合議)

国家の仕事は教育の条件整備。教育内容には干渉しない～中立性～

b. 学校教育の教育内容は?

①憲法・教育基本法から

「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。

義務教育は、これを無償とする。」 (憲法 26 条 2 項) 普通教育

「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない。」

(教基法 14 条 1 項) 政治教育

②普通教育とは

○文部省の解説

「普通教育とは、人たる者にはだれにも共通に且つ先天的に備えており、又これある故に人が人たることを得る精神的、肉体的諸機能を十分に、且つ調和的に発達させる教育をいうのである。

かかる教育は、いかなる身分の者、またいかなる職業につく者にも共通であるから、名づけて普通教育と称するのである。

それであるから、普通教育は、特定の技術、学芸を習得させて特定の業務に役立たせることを目標とする特殊教育、専門教育ないし職業教育と区別される。このような普通教育は、人たるものすべてに共通に必要な教育であり、人たるだれもが一律に享受しうはずの教育であるから、国家はその必要なる最小限を国民に確保しなければならない。ここに普通教育の概念が義務教育のそれと結びつかわねばならない。」

(文部省内 教育法令研究会「教育基本法の解説」より)

- 「人たる者が共通に持ち、調和的に発達させるべき精神的・肉体的諸機能及び諸能力」とは？
～勝田守一教育学に学んで～

労働の能力…職業労働に従事できる能力(労働技術能力)
社会的能力…人間関係を統制したり調整したり、変革したりする能力(含 指導性や社交性)
感応表現能力…喜び悲しみを感じ取り、表現しながら互いの気持ちを豊かに交流しあえる能力
認識の能力…自然と社会についての認識能力(科学的能力)



基礎的能力；感覚・情動機能・身体運動機能・感受性・言語機能等

- ③政治教育…中学社会科・公民科・地歴科 特別活動(特に生徒会活動)で

c. 中等教育の教育課程の構造

教科指導 基礎教科(国語・数学・外国語)…言語能力・認識能力・労働能力を中心に
科学教科(社会・理科・家庭・保健)…認識能力・労働能力を中心に、政治教育も
表現教科(芸術・体育)…基礎的能力・感応表現能力を中心に
特別活動(学校行事・生徒会・学級活動)…社会的能力・感応表現能力を中心に総合的に
線合的学習…総合的に
(道徳)…人間・市民道徳の涵養



人格と能力の形成

(2) 私学(中学)教育とは

a. 近現代公教育の原則と私学教育

学校教育とは市民の「私事の組織化」されたもの

→私学こそ、原則に合致 = 「私事の組織化」 = 市民(たち)が教育・人づくりの或る理念(建学の精神)に基づいて
学校設立→教育理念・教育内容に賛同した市民がその子女を入学させる
= 私学の自由(公立学校以上の自由；教育内容への公権力の介入を許さない)
※或る私塾人「教育は国家にやらせてはいけない」

b. 私学校長の仕事(教職員と協議しながら)

建学の精神を現代に翻訳して、その理念に基づいた学校づくり・教育課程づくり(含 授業論)をすること、そして、
それに基づいた教育の指揮を取ること

◎私学教育～三輪田学園の学校づくり～

(独り言)

幸い、前校長までの間に、伝統校として教育体制は出来上がっていた！
自分の仕事は、もう一歩現代の学校にすること。最低限潰さないこと！
教職員以上に働かなければ教職員はついてこない！
現代の校長はプレイングマネージャーでありたい！

(1) 法人理事として

消費収支計算書…500人の応募者・約1000人の在校生・約70人の教職員としている

収入(一基本金組入) 一支出=0

└基本金の中に将来の改築費用を組み入れる(法人理事としての任務)

⇨その為には、500人の応募者(複数回入試で延1000人)を集める必要

プレイングマネージャーとして、募集活動の先頭に！ 授業は2年程

(2) 中学・高校校長として

学校教育 = 公教育（公立及び私立）は私事の組織化

= 保護者の理解と共感を得ながら、教職員と協議して現代の三輪田学園教育を作り、実践する

= 募集活動（三輪田の教育を語る←受験生保護者の期待や想いを感じ取る）

→私学校長の（固有の）仕事と募集活動の統一・両者は「私事の組織化」そのもの

（以下、「三輪田学園学校説明会資料集」を使用しての講演）

a. 建学の精神（教育理念）の検討とそれを具体化した教育課程

「徳育・知育・体育・美育」校訓 “誠の他に道なし” 徳育と知育 調和ある人格

「天は男子の上に女子を造らず、女子の上に男子を造らずと言えり。」 女子に高い教養を

→「高い学力の育成と人間教育の充実」

学力形成と人格（価値観）形成をバラバラにしないカリキュラム ①

以前から力を注いできた「読書指導」「道徳の時間」を更に充実させる

b. 現代の学校にする = 「高い学力と人間教育の充実」の内実を深化させる

・1995年オウム事件…企業主義的大衆社会の閉塞感が生んだもの

個人も企業も「競争のシステムがすべて、問題はそこでの勝敗だけ」という社会通念、それに対抗する

価値観・社会勢力が脆弱←そこからの離脱願望 →自分のライフスタイルをデザインする

→過度の競争のない学校

・「自分自身の人生を語る女性であれ」

→女性としての生き方を考える

c. 保護者の期待・想い→①勉強やクラブに取り組んで人間として成長してほしい

→高度で、付いていける授業・充実したクラブ活動 ②

「道徳・HR」の時間の充実、生き方 = 進路指導の充実 ③

②希望の大学に進学させたい、塾に行かなくても合格できる指導を

→進路・進学指導の充実（目的意識を持った進路決定・合格実績の向上）④



以上のような体制を私なりに先頭に立って試行錯誤しながら15年間指揮をとって参りました。本日は大きく3つの項目に分けて説明させて頂きました。ありがとうございました。

●講演後、参加された先生方より感想が述べられました。



今年から京華中高の校長になりました塩谷と申します。西先生の話聞いておまして、18年前に突然一般の教員から校長になられたということで、先生の一言一言が胸に突き刺さるという感じでした。特に独り言の部分で「教職員以上に働かなければ教職員はついてこない！」という部分です。一つ質問です。先頭に立って広報活動などをされたということでしたが、具体的にどのような活動をなされたのかお聞きしたいです。

塩谷 耕先生（京華中学・高等学校 校長）



ほとんどの説明会や校外にも出ておりました。学校で行なう説明会では最低30分は必ず話をしていました。

校長は基本的に教育理念をお話しますが、それだけではキャッチコピーになってしまいます。ですから教育理念をどのようにカリキュラムや学校行事、あるいは道徳の授業に具体化しているのかという部分まで話をしなければ、本当の意味での説明にはならないのかなと思っております。あと、学校説明会の他にも合同見学会的な内容のミニ説明会というのを立ち上げました。多い時は年間に10回くらい行なっておりました。「校長と三輪田学園を体験しよう」という受験生とのディスカッションも年間10回くらい土曜日の午後に行なっておりました。外部の説明会は時間の許す限り行なっておりました。

西 惇先生（前三輪田学園 校長）



本日は西先生のお話を聞いて本当に来て良かったなと思いました。私もほとんど外部説明会には行くのですが、西先生はいつでもいらして本当にびっくりするくらいです。ずっと保護者との対応をされているのは西先生なんですよ。ある時は西先生しかいらっやらないという会もありまして本当に頭が下がる思いでした。これまでは、色々な会において開会や閉会の言葉などで西先生のお考えを垣間みるくらいでしたが、本日は本当にコレだ！という感じでとても感動しております。どうもありがとうございました。

辰巳 順子先生（東京女子学園中学校高等学校 教頭）



先程、辰巳先生がお話されてましたように今回お話を聞かせて頂いて、求めている事ややりたい事だなと思いました。これまでは何となく一教員として例えば、私自身が体育科ですので5教科以外のものもこういう風に作っていかうと、自分の体育という教科でも必ず生徒達にとって大切なものがある訳なので、それをうまく発信していきましょうという事でやってきましたが、それを他のものとうやって混ぜ合わせていくのか？先程のお話で道德のカリキュラムと授業全体、目標とする進路のものが一つの表にまとめられていましたが、こういうまとめ方をしていくと分かり易いなというのが驚きでした。

現在、色んなところの募集要項などを見させていただいておりますが、すごく分かり易く校長先生の考え方がそのまま反映されており、募集要項ではなく説明会資料として作られていることが感動しました。こういうものを作れていたらなと思いました。今日の事は参考にさせて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。

中山 正秀先生（トキワ松学園中学校高等学校 教頭）



私が凄く感激したのは、やはり教科のカテゴリーを面白く分けていらっやるといことです。特に表現教科という意味合いが非常に分かり易く、これからは情操教育というのが大事にくるのかなというのが良く分かりました。それから説明会資料という、きちんと目に見えるような形でまとめられるということは、もちろん保護者用でもあると思いますが、教師用でもあり学校の方針というものを先生方にも理解して頂きそれが生徒にも伝わっていくということが非常に大事だと感じました。私の学校でもこういうものを作っていきたいなと思っているところです。

また、募集活動においても入口と出口を良く考えられていて学校の中では非常に大事なことだと思い、私もやっていきたいと思いました。

今日は本当にありがとうございました。

片倉 敦先生（順天中学校・高等学校 副校長）

各学校における3D教育プログラムの活用状況の報告

～生徒指導で難しさを感じる点、あればいいなと思う教材～

今回は生徒指導において難しさを感じる点を寄せて頂きました。

1. 日ごろ生徒指導に関して「むずかしい、困った」と感じる点

1「グループコミュニケーションの指導に関すること」という項目です。

- 先生によって指導の温度差がある
- グループコミュニケーションのやり方
- マイチャレンジの取り組み

2「生徒の全般的な傾向に関すること」

- 学習・生活態度にはほとんど問題ないが、皆のことになると動きが鈍い。教室の掲示板が落ちていても誰も貼る者がいないので放っておかれる。他人のために役に立つという意識が乏しい。いちいち指摘しないとできない。
- クラブ活動では、その練習が何のために行なわれているかを考えて練習している生徒が少なく、ただこなしているだけになってしまっている。クラスでは自分のことしか考えられない生徒が多い。「クラスのために」と考える生徒が少ない。
- 自己中心的な姿勢が強く、継続して物事に取り組めない。

3「特に問題を感じる生徒について」

- 小学校の時に人間関係につまづいて先生に対して不信感しかない
- あまりに幼く周囲からも少し距離をとってしまう
- 自分に不利な状況になるとうそをついたり逃げたりする
- 女子生徒が敏感で、人が話をしていると自分の事なのではないかと思いついてしまい悩んでしまっている
- (女子) グループのリーダーの子が突然孤立してしまい困ったと言い出す

2. グループコミュニケーションの教材で「このようなテーマ、内容のものがあればいい」と思うもの

- 面接に強くなるような教材があったらすぐにでも欲しい
- どういう言葉を発したら、人がどう思うか
- 「いじめ」に関する段階的なグループコミュニケーション
- 他人への寛容性
- 他者との違いを認識する上で「その違いをかかえる他者とのかかわり」にまで進めた教材

グループコミュニケーションですから教材の中には必ずグループ討論・発表というものが含まれておりますが、それ以前のグループ討論をしていく為の下地となる人間関係が作れる能力、そういったものがやはり不足していて、そこに問題点を感じられている先生が多いのだなと思いました。

以上、私自身の感想も述べてしまいましたがアンケートの報告となります。ありがとうございました。

高野 淳一先生(東京学園高等学校)



懇親会



記念撮影



参加者全員での記念撮影



出来る・大丈夫・大成功

3D 教育研究会

2011. 2.19 第12回 3D 教育研究会 in 東京ガーデンパレス

株式会社 K A 教育

〒173-0012

東京都板橋区大和町 12-12

03-6784-7675